

root

第17回京都大学人文科学研究所 TOKYO漢籍SEMINAR

古今東西
漢籍研究会

吉いけれども古びない。歴史があるから新しい。

デジタル漢籍の誕生 デジタル時代の漢籍の楽しみ方

漢字から漢語へ、漢語から漢文へ

京都大学人文科学研究所 教授

安岡孝一

永崎研究宣

京都大学人文科学研究所 教授

クリスティアン・ウイッテルン

京都大学人文科学研究所 教授

主席研究員

デジタル漢籍

漢籍



2022年3月7日[月] 10:30 ~ 16:00 講演無料・要申込み

会場／学術総合センター内 一橋大学一橋講堂中会議場
(千代田区一ツ橋2-1-2)

聴講ご希望の方は、右記URLのフォームから氏名・連絡先（住所・電話番号・E-mailアドレス）をご記入の上、お申し込みください。【2月25日(金)17:00 締切】

受講票（ハガキ）をお送りいたします。（2月下旬から順次発送）

会場ではなくオンラインによる開催になる場合があります

京都大学人文科学研究所
附属東アジア人文情報学研究中心

〒606-8265 京都市左京区北白川東小倉町47

E-mail: kanseki-tokyo@zinbun.kyoto-u.ac.jp

URL: http://www.kita.zinbun.kyoto-u.ac.jp/2022_kanseki_tokyo



セミナーお申し込み
フォーム

○詳しくは裏面をご覧ください。

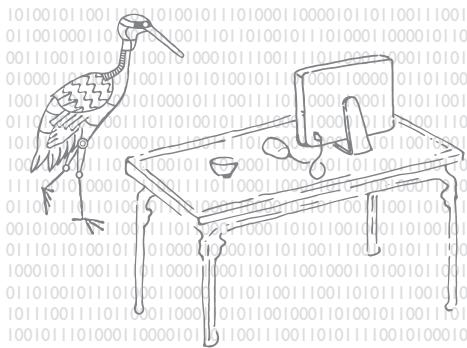
《今回回概要》

今日のインターネット時代においては、何時でも、何処でも、ネットの接続さえあれば漢籍が画面上で閲覧できます。研究者だけではなく、漢籍の愛好者、書道家や様々な分野に関心のある方は、すぐに見たいテキストに触れることが可能です。デジタル漢籍には国境が無い、中国、韓国、台湾や欧米各国にある漢籍も遙々見に行けます。



漢籍

SEMINAR



そのデジタル漢籍は一体誰がどんな目的で作ったのでしょうか？長い間、紙媒体で伝わってきた、文化の伝承に欠かせない貴重な資料は本当に画面上で正確に伝えられるのでしょうか？それはどんな歴史をたどり、途中でどんな困難に遭遇したのでしょうか？そして今ではそのデジタル漢籍はどのように読まれているのでしょうか？今回のセミナーではデジタル漢籍の誕生から現在の利用法やAIの導入まで、デジタル化された資料における諸問題を分かりやすく紹介したいと考えています。

●参加定員／80名(申し込み順)

*定員を超えた場合はお知らせします。

●申し込み期限／2月25日(金) 17:00 必着

*申し込みの詳細は表面をご覧ください。

●プログラム

司会 永田知之（人文科学研究所准教授）

10:30~10:45	○開会挨拶	東アジア人文情報学研究センター長 池田 巧
10:45~11:45	○講 演	デジタル漢籍の誕生 京都大学人文科学研究所 教授 クリスティアン・ウィツテルン
11:45~13:00 ○休憩		
13:00~14:00	○講 演	デジタル時代の漢籍の楽しみ方 一般財団法人人文情報学研究所 主席研究員 永崎研宣
14:00~14:20 ○休憩		
14:20~15:20	○講 演	漢字から漢語へ、漢語から漢文へ 京都大学人文科学研究所 教授 安岡孝一
15:20~15:35 ○休憩		
15:35~15:55	○質問への回答	
15:55~16:00	○閉会挨拶	

●会場／学術総合センター内(千代田区一ツ橋2-1-2) 一橋大学一橋講堂中会議場



- 会場への交通機関
 - 東京メトロ半蔵門線
 - 都営地下鉄三田線・新宿線
 - 「神保町駅」A8出口より徒歩5分
 - 東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口より徒歩5分
- 都営新宿線
- 都営三田線
- 東京メトロ半蔵門線
- 東京メトロ東西線
- 高速道路